

事業目標 1 琵琶湖の魅力を深く掘り下げ、世界に紹介

担当:研究部

重点事業 1 - 1. 世界有数の古代湖としての琵琶湖の価値を高める研究の推進

10年後の目標	複合分野における研究プロジェクトが内外から企画されている。(古代湖研究で琵琶湖が研究対象または比較対象とされている)				
5年間の事業の考え方	既存の研究プロジェクトのとりまとめと新しい複合分野の研究プロジェクトの立ち上げを進める。				
前期5年間の計画					
年度	2021	2022	2023	2024	2025
達成する状態(目標)	各年次報告書提出	基盤B最終報告書提出	総合研究最終報告書提出	新総合研究年次報告書提出	館内において複合分野の研究プロジェクトが企画、実施されている。
進めること	総合研究・基盤B研究の推進 次期総合研究の検討開始	総合研究の推進 基盤B研究のとりまとめ 次期総合研究の内容・体制の検討	総研「過去150年」とりまとめ 次期総合研究の研究計画調書提出	新総合研究の立ち上げ	新総合研究の実施

重点事業 1 - 2. 研究成果を国内外に発信し、琵琶湖の魅力を人々に伝える

10年後の目標	琵琶湖の新たな魅力に気づき、知りたい人が増える。				
5年間の事業の考え方	ウェブを中心とした新たな研究発信方法の構築とコンテンツの充実をはかる。				
前期5年間の計画					
年度	2021	2022	2023	2024	2025
達成する状態(目標)	リサーチマップの掲出と更新	J-stageへの研究報告書掲載	コンテンツ案策定	新コンテンツのウェブ掲載	琵琶湖地域に関する研究成果が、ウェブを中心として適切な媒体によって国内外に発信されている。
進めること	既存の枠組みでのウェブ発信	J-stageへの研究報告書掲載手続き	ウェブ掲載コンテンツの検討	新コンテンツのウェブ掲載	新コンテンツの改良

重点事業 1 - 3. 研究の質を高める環境の整備ならびに研究の活性化

10年後の目標	必要な設備が整った研究機関と認識される。内外の研究者による設備を利用した研究成果が公表される。				
5年間の事業の考え方	耐用年数を超えたり故障した研究備品を更新し、共同利用を推進する。				
前期5年間の計画					
年度	2021	2022	2023	2024	2025
達成する状態(目標)	最新の備品更新計画策定	備品調達方法のリストアップ	備品調達方法の改善 既存の施設備品による研究成果の公開	大型備品の確保	琵琶湖研究に必要な研究設備が整備される。
進めること	備品更新計画の更新 既存の施設備品による研究推進	備品調達方法の検討 既存の施設備品による研究拠点形成の検討	備品調達の試行 既存の施設備品による研究拠点形成	必要備品(電子顕微鏡や調査船)の確保 既存の施設備品による共同利用の推進	新規購入備品を使った研究の促進 共同利用の推進

事業目標2 資料を未来に遺し、どこからでも使えるように整備

担当：資料活用係

重点事業2-1 標本・資料の管理体制の強化

10年後の目標	安全な収蔵庫環境が確立されている。				
5年間の事業の考え方	開館から25年が経過し収蔵庫の保管環境や作業環境が悪化しているため、計画的に改善を図るとともに、IPMによる管理体制を強化する。				
前期5年間の計画					
年度	2021	2022	2023	2024	2025
達成する状態（目標）	収蔵庫空間の設備の不具合の原因が把握できている	問題のある設備改修の予算申請の年次計画を立案	収蔵庫空間のIPM体制の問題点が把握できている 環境改善に向けた予算申請 改修工事により改善された環境	IPM体制の改善 改修工事により改善された環境 環境改善に向けた予算申請	再構築されたIPMにより定期的な管理体制が確立する 改修工事により改善された環境 環境改善に向けた予算申請
進めること	収蔵庫空間の電気、空調、排水設備等の故障や老朽化の情報集約 民俗収蔵庫1の雨漏りの原因究明と修繕	収蔵庫空間の電気、空調、排水設備等の故障や老朽化の一斉点検 収蔵庫(映像と民俗1)空調用冷水バルブ修理/蛍光灯の安定器故障による照明器具のLED改修予算の要求	予算がついたものの改修工事 積み残しの問題のある設備改修の予算申請 IPM体制の問題点の情報集約	予算がついたものの改修工事 積み残しの問題のある設備改修の予算申請 IPM体制の改善案を検討	予算がついたものの改修工事 積み残しの問題のある設備改修の予算申請 収蔵庫環境の管理体制の構築

重点事業2-2 標本・資料の整理の推進と公開による利用促進

10年後の目標	データベースの充実が図られ、館内外の利用者のレフェレンス機能が強化されている。				
5年間の事業の考え方	従来より進めてきた収蔵品データベースへのデータ入力を引き続き行うとともに、画像データが付加されたより魅力的なデータベースとなる。				
前期5年間の計画					
年度	2021	2022	2023	2024	2025
達成する状態（目標）	ウェブ公開データベースの充実に向けたデータ入力が進む	ウェブ公開データベースの充実に向けたデータ入力が進む	資料写真整理とデータベースへの登録が進む ウェブ公開のための体制が整備される	データベース運営における問題点の抽出と改善方法の検討	データベースがスムーズに運営されている
進めること	緊急雇用による資料撮影と新規登録	資料写真整理体制の検討	資料写真整理体制の整備 データベース編集作業、データベース画面デザイン、博物館ウェブページとの調整	データベース運営における問題点の検討	データベース運営における問題点の改善

重点事業2-3 ICTを利用し、だれでも・どこでも・いつでも使える博物館を創出

10年後の目標	資料の情報がどこからでも楽しめる。				
5年間の事業の考え方	リニューアル後の常設展示資料情報に対応したウェブ図鑑の公開を進める。				
前期5年間の計画					
年度	2021	2022	2023	2024	2025
達成する状態（目標）	写場の設備計画の立案 多面的な音声ガイド情報が公開	写場の設備が整えられている ウェブ図鑑の構築に向けた資料の画像情報の蓄積が進む	ウェブ図鑑の構築に向けた資料の画像情報の蓄積が進む	ウェブ図鑑の構築に向けた資料の画像情報の蓄積が進む	リニューアル後の常設展示資料情報と連携したウェブ図鑑の公開

進めること	写場の設備の現状把握 多面的な音声ガイド情報の整備	写場の設備を更新 ウェブ図鑑の構築に向けた資料の画像 情報の蓄積	リニューアル後の常設展示資料情報の 整理	リニューアル後の常設展示資料情報の 公開における問題点の検討	リニューアル後の常設展示資料情報の 公開における問題点の改善
-------	------------------------------	--	-------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------

事業目標3 みんなで学びあう博物館へ

担当：交流係

重点事業3-1 幅広いニーズに応える交流事業の充実

10年後の目標	多様な主体と博物館と一緒に充実した交流事業を作り出すことができ、それを通じて「人びと・びわ博」の複合文化的共同体（「文化的コミュニティ」）として定着される。				
5年間の事業の考え方	利用者との対話を通じて交流事業のニーズを確認しながらメニューの充実を図る。また、交流事業の実施者の多様化を促進する。				
前期5年間の計画					
年度	2021	2022	2023	2024	2025
達成する状態（目標）	琵琶湖博物館全体の交流事業の現状が把握される。	交流事業の充実のための計画や方針が策定される。	計画的なメニューの充実が進むとともに、実施者の多様化も進む	計画的なメニューの充実が進むとともに、実施者の多様化も進む	交流事業が充実するとともに、実施者も多様化する。
進めること	これまでの交流事業の実績を他の係の実施分も含めて整理し、現情を把握する。	博物館が提供できる（すべき）交流事業の候補をリスト化し、さらにびわフェス等でニーズの確認を行う。その結果をもとに交流事業の充実のための方針を策定する。	交流事業の充実のため、学芸職員やはしかけ、外部団体等に声かけや相談をしてメニュー作りを進める。また継続的にニーズ調査を行う。	交流事業の充実のため、学芸職員やはしかけ、外部団体等に声かけや相談をしてメニュー作りを進める。また継続的にニーズ調査を行う。	館内外の人びとと共に、これまで5年間の交流事業の実践を検証する。

重点事業3-2 出合いの場の創出

10年後の目標	博物館を利用する人々が出会いや学びあいを契機に新たな研究や事業を生み出す風土が形成されている				
5年間の事業の考え方	フィールドレポーター制度やはしかけ制度およびそれらの出合い・発表の場であるびわ博フェスを基盤に、参加する層を拡充し多様性を高めることで目標を実現する。最初の5年間は団体・企業当の参入を促すため団体向けのはしかけ制度的なものを作る。				
前期5年間の計画					
年度	2021	2022	2023	2024	2025
達成する状態（目標）	登録制度の概要についての整理	制度運営に必要な要項等の整備	登録開始、利用実績作り 拡大びわ博フェス開始	登録団体の拡充と利用実績の増大 拡大びわ博フェス	さまざまな個人と団体が博物館を利用して活動を行い、人々の出合いの機会が増加している
進めること	団体向け登録制度に関する情報収集	団体向け登録制度発足の準備	団体向け登録制度の開始 びわ博フェスへの団体の参加	団体の勧誘 びわ博フェスの計画・運営方式の検討	交流状況についての効果測定とまとめ

重点事業3-3 「深く学ぶ力」に基づく琵琶湖学習の支援

10年後の目標	体験的な教材を主体的に生み出せる教員が増加している				
5年間の事業の考え方	「深く学ぶ力」による学習では体験が重視されるが、琵琶湖学習においては教師自身の「体験」の機会が少なく有効な教材を生み出しにくい問題がある。この問題を解消するため、研修によって教師自身の「体験」を支援する。				
前期5年間の計画					
年度	2021	2022	2023	2024	2025
達成する状態（目標）	教師が「体験」的な教材を生み出すために役立つ研修の構築	受講者の意識向上を指標に改良された研修の実施	受講者の意識向上を指標に改良された研修の実施	受講者の意識向上を指標に改良された研修の実施	教員が体験的な教材を主体的に生み出せる教員研修の確立
進めること	研修内容の見直しと試験的实施 事前・事後・1年後アンケート効果測定と実践例収集	研修の見直しと試験的实施 事前・事後・1年後アンケート効果測定と実践例収集	研修の見直しと試験的实施 事前・事後・1年後アンケート効果測定と実践例収集	研修の見直しと試験的实施 事前・事後・1年後アンケート効果測定と実践例収集	研修の継続的な実施 研修の成果まとめ

事業目標4 もっと使いやすい博物館へ

担当：展示係

重点事業4-1 誰もが楽しみ学べる博物館展示への成長

10年後の目標	誰もがユニバーサルに楽しみ学ぶことができる展示としての評価が定着する。				
5年間の事業の考え方	視覚障害者と外国語使用者への対応として音声ガイドを導入したが、その性能上、一部の展示しかカバーできていない。最初の5年間はこの問題に取り組むこととし、可能な限り多くの展示へのアクセシビリティを確保するため、新たなICT技術を用いたガイド手法を導入する。				
前期5年間の計画					
年度	2021	2022	2023	2024	2025
達成する状態（目標）	採用する手法の候補が決まる	展示室においてテストが行われ、実現性や課題が明らかになる	新しい手法によるガイドの数が増え、その効果についての検討が行えるようになる	効果測定に基づく改良と解説項目の増加が進む	常設展示室の展示の大半に解説がつき、アクセシビリティが向上する。
進めること	ガイド手法についての情報収集	ガイド手法の試行	新しい方法に合わせた展示解説の作成と配置開始	解説の追加・改良	解説の追加、改良 利用者による評価

重点事業4-2 「観る」展示から「観る+使う」展示への成長

10年後の目標	展示室と野外の現場をつなぐ仕組みができ、両者を自在に往来し楽しみ学べる博物館となる。				
5年間の事業の考え方	展示室から現場の情報にアクセスすることでより展示を楽しむ仕組みを、インターネットの利用により実現する。外部から展示室を利用する方法については重点事業5-1で展開し、6年目以降に両者を活かしたプログラム作りを進める。				
前期5年間の計画					
年度	2021	2022	2023	2024	2025
達成する状態（目標）	方法の検討と小規模な試行	展示から現場の情報・より詳しい情報をとりに行く行動を促す仕組みについて情報が得られる。	展示から現場の情報・より詳しい情報をとりに行く行動を促す仕組みが強化される。	展示室から外の情報にアクセスすることでより展示を楽しむ利用方法が来館者に認知されるようになる。	展示室と現場をつなぐ楽しみ方の認知が広がり、一般に利用されるようになっていく。
進めること	方法の検討と小規模な試行	博物館から現場の情報を取得する仕組みを一部の展示を使って試す	博物館から現場の情報を取得する仕組みを試す範囲を拡げる	博物館から現場の情報を取得する楽しみについてのPR	仕組みの充実

重点事業4-3 社会の変化や研究成果を反映させた展示の成長

10年後の目標	来館者が全展示室で、最新の自然・社会・研究状況を反映した情報を得られるようになっている。				
5年間の事業の考え方	常設展示の情報の見直しと修正を、リニューアルが終了した時期の早いものから順次進め、5年間で一通りの更新を実施する。				
前期5年間の計画					
年度	2021	2022	2023	2024	2025
達成する状態（目標）	C展・水族の更新計画	C展示・水族展示の更新の一部実現 大型更新のための予算要求提出	C展示・水族展示の更新が完了 A展・B展の更新計画	A展示・B展示の更新の一部実現 大型更新のための予算要求提出	A展示・B展示の更新が完了し、常設展示の更新の1サイクル目が終了している。
進めること	C展・水族の更新計画を策定	経常予算でのC展示・水族展示の更新 予算措置が必要な更新の予算編成	C展示・水族展示の大型更新の実施 A展・B展の更新計画を策定	経常予算でのA展示・B展示の更新 予算措置が必要な更新の予算編成	A展・B展の大型展示更新 次のサイクルの進め方の検討

事業目標5 より多くの人々が利用する博物館へ

担当:広報営業課・企画調整課

重点事業5-1 ICTを活用したびわ湖の魅力とその入口としての博物館の紹介

10年後の目標	ウェブサイトによる情報提供で国内外の人々がびわ湖や博物館の魅力を知り、来館にもつながる。				
5年間の事業の考え方	ウェブサイトを「もう一つの琵琶湖博物館」（バーチャルミュージアム）と位置づけ、サイトだけでも琵琶湖（湖と人間）について学べるように情報を発信する。また、展示室のようすや展示解説も掲載し、疑似的な来館を実現する。最初の5年間は枠組みづくりを中心に進める。				
前期5年間の計画					
年度	2021	2022	2023	2024	2025
達成する状態（目標）	発信計画の素案ができる ウェブサイト改良の第一段階が終了 展示紹介動画ができ、公開される	発信計画ができる 発信準備としてページの再編成が進む	各メニューの掲載が始まる	アクセス解析により、アクセスを増やすためのルート改善が進む	ウェブサイト上で「湖と人間」について学べるようになっている。また琵琶湖博物館の疑似的な来館が可能になっている。
進めること	発信計画の検討 ウェブサイト再編成（サイト統合） 博物館紹介動画（展示概要）作成	発信計画（ページ構成案）策定 ウェブサイト再編成（ページ整理） 博物館紹介動画（トピック）作成	各ページのコンテンツ作成、掲載開始 琵琶湖紹介動画の計画 アクセス解析開始	アクセス解析およびページの改良 コンテンツ掲載継続 琵琶湖紹介動画作成	発信計画のみなおし 琵琶湖紹介動画アップ アクセス解析

重点事業5-2 双方向の広報や各種調査・評価による情報収集と事業への反映

10年後の目標	各種調査・分析・評価結果が、事業に反映される状態となっている。				
5年間の事業の考え方	琵琶湖博物館の社会貢献を測定し、事業に活かせるような仕組みを運営できる組織体制を確立する				
前期5年間の計画					
年度	2021	2022	2023	2024	2025
達成する状態（目標）	博物館の状況を客観的に評価するための手法、目的や指標の検討を行う	博物館の状況を客観的に評価するための調査・評価手法を選定する	調査が行われ、評価結果が出るとともに当初の目的に適合するかどうかの検討が行われる	必要に応じて改善された調査が行われる	調査評価の方法が確立し、博物館の状況を客観的に示せるようになっている
進めること	調査・評価方針の検討	調査・評価方針の検討	調査の実施	調査の継続実施（改善含む）	調査の継続実施（改善含む）

重点事業5-3 来館しやすい環境の整備

担当：総務課

10年後の目標	来館のための利便性が高まり、気軽に訪問できるようになる				
5年間の事業の考え方	予約システムによる来館者の分散は2020・21年度実績より現実的でないと判断。キャッシュレス・チケットレス環境は前倒しの整備となったため、2022年度をもって終了予定。				
前期5年間の計画					
年度	2021	2022	2023	2024	2025
達成する状態（目標）		キャッシュレス・チケットレス導入による利便性の向上			

進めること	予約システムの活用方法の検討 キャッシュレス・チケットレスの導入	利用実績に基づくキャッシュレス・チケットレスの対象会社の拡張			
-------	-------------------------------------	--------------------------------	--	--	--

事業目標6 博物館の活動を安定して継続する

重点事業6-1 老朽化した施設の改修と災害への備え

担当：総務課

10年後の目標	改修によって施設全体、特に資料の保管環境が安定し、マニュアルの再整備により災害に強い運営体制が整っている。				
5年間の事業の考え方	「災害に強い」を重視し、災害に耐えられるような資料の保管環境を実現する改修を優先的に進めるとともに、危機管理体制の見直しを行う。				
前期5年間の計画					
年度	2021	2022	2023	2024	2025
達成する状態（目標）	改修・危機管理の改善に向けた準備	改修更新計画 危機管理マニュアル	施設改修の進捗 危機管理体制整備の進捗	施設改修の進捗 危機管理体制整備の進捗	計画に基づいた建物・施設の改修が、優先順位の高い標本・資料の保管環境から進んでいる。 危機管理マニュアルが職員に浸透している
進めること	改修更新個所の洗い出しと分類 危機管理項目の頭出しと既存マニュアルの再収集・整理	建物・施設改修更新計画完成 危機管理管理マニュアル統合版完成	標本・資料の保管環境整備開始 危機管理のための体制整備着手、訓練・研修計画作成	標本・資料の保管環境整備継続 建物関係の改修・更新開始 マニュアルに基づく訓練・研修	標本・資料の保管環境整備継続 建物関係の改修・更新開始 危機管理マニュアル改訂作業開始

重点事業6-2 安定した活動基盤を確保する仕組みづくり

担当：広報営業課・総務課

10年後の目標	支援制度のほか、各種のリソース源が開拓され、多角化によって活動基盤の安定化が進んでいる。				
5年間の事業の考え方	支援制度の整備と安定化をまず実現する				
前期5年間の計画					
年度	2021	2022	2023	2024	2025
達成する状態（目標）		びわ博サポーター制度を利用しやすくするための検討が進む	制度の改善のために必要な行政手続きが進められる	改良された制度が始まる	企業・団体・個人等から支援を受ける仕組みが確立している
進めること	リニューアル後の博物館支援制度の試行	支援制度の課題の抽出と最適化のための検討	最適化のための手続き	支援制度の運用開始	支援制度の運用